



「まちに開かれた芸術文化拠点」を目指す京橋彩区が開催する芸術文化講座。2020年度第10回は「藤島武二と青木繁：アーティゾン美術館の4つの重要文化財を中心に」です。アーティゾン美術館教育普及部長の貝塚さんをお招きし、この二人の偉大な画家と作品についてお話しして頂きます。

< 2020年3月(第15回) >

藤島武二と青木繁 アーティゾン美術館の4つの重要文化財を中心に

明治以降の日本の近代美術を語るとき、藤島武二(1867-1943)と青木繁(1882-1911)を無視することはできないでしょう。二人とも2作品ずつが重要文化財に指定されていることに、そうした評価が表れています。その4作品ともに、実はアーティゾン美術館が所蔵しています。

二人は15歳違いで、東京美術学校(現・東京藝術大学美術学部)で師弟の関係にありました。性格や行動、活躍期間の長さもまったく異なるのですが、この二人こそが、明治30年代後半のいわゆる「明治浪漫主義」をもっとも鮮やかに彩った画家だと見なされています。

アーティゾン美術館の前身であるブリヂストン美術館の創設者・石橋正二郎(1889-1976)の美術品収集を辿ってみても、この二人はたいへん重要な存在でした。

日 時：2021年3月17日(水) 18:30～20:00

会 場：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
「オンライン講座」としてYouTubeにて配信します。

参加料：無料

申込方法：京橋彩区のお申し込みフォーム(<https://bit.ly/2Nfr05D>)、
右上の**リンクボタン**(またはQRコード)よりお申し込みください。

▶ お申し込みフォーム
(京橋彩区)



※今後の状況により、延期・中止をさせて頂く場合も
ございますので、あらかじめご承知置ください。

< 講師 >



公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館 教育普及部長 貝塚 健氏

1989年、ブリヂストン美術館(現アーティゾン美術館)学芸員。学芸課長、学芸部長を経て2018年から教育普及部長。
専門は日本近代美術史、美術館教育、博物館学。

企画担当した主な展覧会に、白馬会展(1996)、藤島武二展(2002)、坂本繁二郎展(2006)、岡鹿之助展(2008)、
安井曾太郎の肖像画(2009)、青木繁展(2011)、描かれたチャイナドレス(2014)、

開館記念展：見えてくる光景(2020)など。